

Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) 礼儀コールバック (CCB) トランク有効性確認

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決策](#)

概要

この資料は入力ゲートウェイで設定される CCB トランク有効性確認パラメータを記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- CVP
- CCB

使用するコンポーネント

この資料に記載されている情報は CVP に基づいています 9.0(1)

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

問題

CVP レポート サーバーは入力ゲートウェイで設定される `survivability.tcl` スクリプトで特定の入力ゲートウェイに起きたコールのために CCB のために超過キャパシティを検証するとき規定される トランク値を使用しません。

CCB がコンタクトセンター 環境で設定されるとき、コールバックは顧客にコールが検証プロセス

スを渡す場合、提供されます。この検証プロセスでは、コールが検証される複数のパラメータがあります。

はたらくコールバックのために正しい survivability.tcl スクリプトは入力ゲートウェイで動作したにちがいあり、仕様パラメータは survivability.tcl サービスの下で設定される必要があります。従ってたとえば、発信者が CUCM からの CVP に直接 IP 生成 発信者ならコールバックははたらくことができません。プローブは survivability.tcl に従って入力ゲートウェイに入力ゲートウェイがコールバックが可能であることを確認するために送返されます。

サバイバビリティの下でコールが有効性確認を渡すことができるように次のパラメータを追加されなければなりません保守して下さい:

パラメーター CCB ID: この gateway> の <host 名前か IP; 位置: <location name>; トランク: コールバック trunks> の <number

各記号の意味は次のとおりです。

id: このゲートウェイのための固有の識別番号はデータベースにどのゲートウェイがオリジナルコールバックの要求を処理したか示すために記録され。

位置: このゲートウェイの場所を規定する 任意場所名前。

トランク: このゲートウェイのコールバックのために予約される DS0 の数。システムがコールバックのために許可されるリソースを制限することを可能にするように T1/E1 トランクの数を制限して下さい

CVP バージョン 10.5 の前に、CCB のために設定されたトランク サイズは特定の入力ゲートウェイのコール背部のためにキャパシティの確認で使用されませんでした。

解決方法

入力ゲートウェイで設定される保留中、進行状況、一時的の現在の呼び出しと Survivability.tcl スクリプト サービスの下の既存の CCB トランク パラメータは今または接続される原因 ID と完了状態比較されます。

基本的にはプロセスは最初に EventTypeID の Callback_current 表からのコールの数を判別します (21,22,23); 、特定のゲートウェイのために一時的な Inprogress 保留中。

2 番目に、Callback_current 同じ表から、接続される原因と完了するコールの数判別して下さい: EventTypeID = 24 (完了する)、および CauseID = 27 (接続される)。

最後にプロセスはこれら二つの値を追加し、Survivability.tcl サービスの下で設定されるトランクの数によって比較します。

結果が設定されるトランクしきい値にある場合プロセスは失敗を送返します (1) 戻りは、他では ok (0) 戻りを送返します。

注: この問題は CDETS と関連しています: [CSCue59908](#) - CVP はゲートウェイ トランク サイズをコールバック キャパシティを検証するのに使用しません